

2025

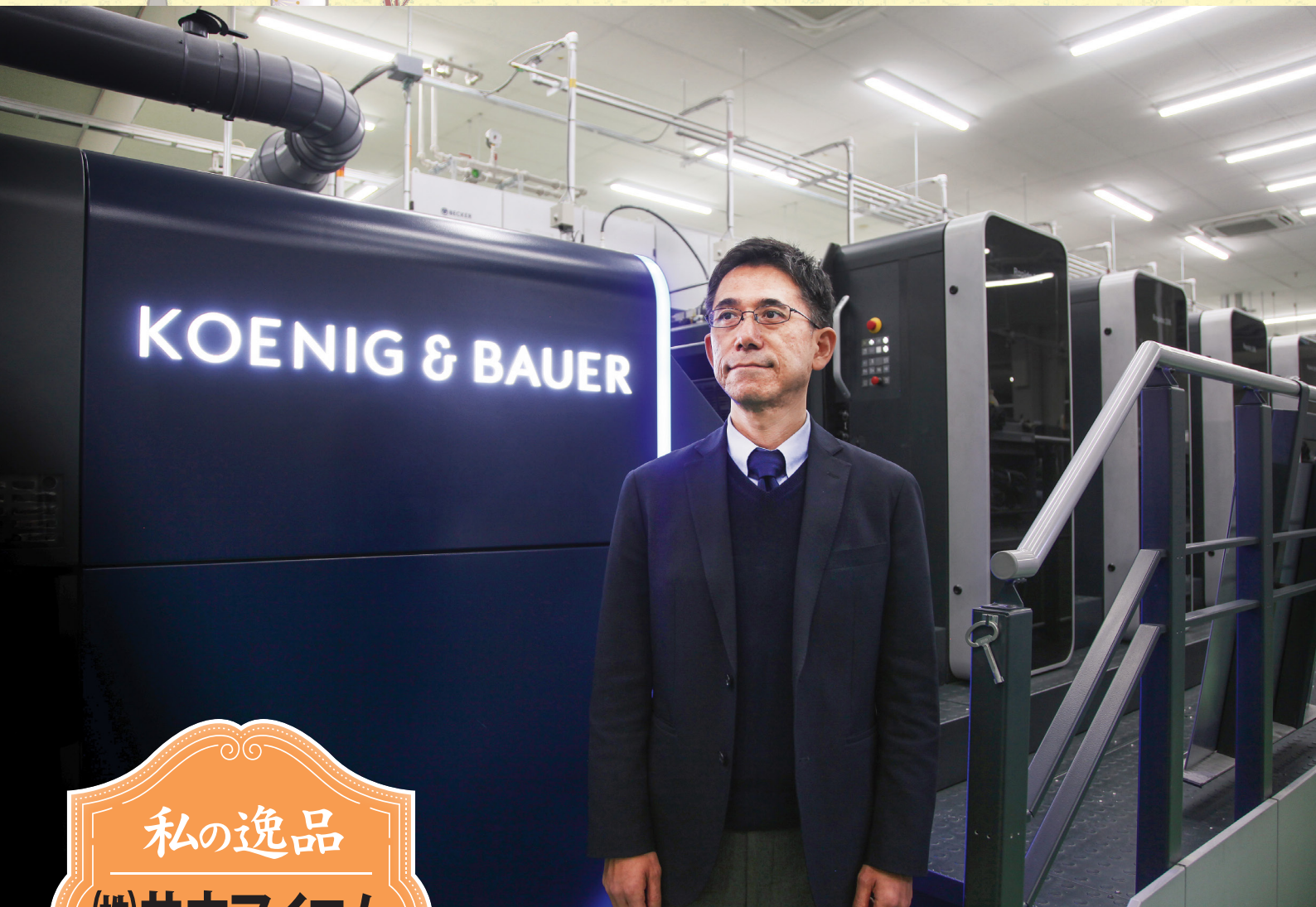
同友しずおか 1



VOL.554

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」「企業も地域もよくなった!」

慶正



私の逸品

(株)共立アイコム

日本に1台、世界最速の枚葉印刷機で『創注』を支える



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。

中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会 3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 経営の成功体験しか聞けない
- 失敗談から勇気とヒントをもらった
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 将来の会社のビジョンができた
- 指示待ち社員ばかり
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

 静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130 
〒420-0857 静岡市葵区藤原町3 静岡三建ビル6F FAX/054-255-7620 E-mail/doyu@shizodoyu.gr.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きやうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

※12月の新入会員の皆さんは2月号でご紹介します。



代表理事 井上 育

(ワシロック工業株 代表取締役)

50年の礎から更なる高己（み）へ！

新年あけましておめでとうございます。昨年は元旦の能登半島地震に始まり、9月には当地で追い打ちをかける水害が発生、被災された方々は生活も儘ならず、心身に厳しい環境下におかれています。この場を借りてお見舞い申し上げます。また、世界的にはウクライナ侵攻、中東情勢の悪化懸念等、平和が脅かされる状況が続いていることには心が痛みます。そして世界経済に目を向ければ、トランプ大統領の復帰が経済安保、社会分断等、不安要因となっております。国内経済は指標上では穏やかに回復しているとは言え、物価の上昇に賃上げが追いつかず、消費行動に弾みがつきません。今後、世界経済の動向によっては予断の許さない状況といえます。

左様な環境下ではありませんが、静岡同友会は昨年50周年を迎え、NEXT50フォーラムでは400名を超える方々にご参加いただきました。50年の振り返りと次の50年に向けた誓いの場となり、お陰様で熱気溢れる記念事業を開催することができました。本年度のスローガン「50年の歩みを生かし、変化の先へ！」の下、来る2026年の中間協定時総会in静岡に向け、本年も環境の変化を怖れず、企業づくりに邁進しましょう。その先には活気ある地域と存在感が益々高まる静岡同友会があることでしよう。今年の十干は乙巳（きのとみ）。努力を重ね、物事を安定させてゆく意味が込められています。学びあいからお互いが切磋琢磨し、自助共助の精神で同友会運動の更なる高みを目指しましょう。

最後に、皆様にとりまして希望溢れるより良い年になることを祈念申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。



会長 遠藤 一秀

(遠藤科学株 取締役会長)

今こそ「人間尊重」経営に徹する時

明けましておめでとうございます。NEXT50フォーラムが大成功の評価を得て閉会し、新たな50年最初の年を迎えました。年の初めには明るい展望を語りたいのですが、今年も先行き不透明な年明けとなりました。海外では、ウクライナ侵攻とイスラエル・パレスチナ紛争が泥沼化し、米国では「また！トランプ」登場、韓国の戒厳令騒動、シリアの電撃的な政変と、予測不可能な事変が多発、各国の政情も世界経済の行方も定まりません。国内では総選挙で自民党が大敗し石破内閣は30年ぶりの少数与党内閣となり、厳しい政策決定を強いられ、経済政策の方向性も予想しにくい状況となっております。

国内経済は、物価上昇が続く、賃金も上がり、金利も上昇傾向で、やっと30年間続いたデフレ経済から脱却しつつありますが、各種の経済指標は一進一退が続く、安定成長が定着したとはまだいえない状況です。人手不足は深刻化し、企業収益もピークアウトし、企業倒産も増えています。内需を支える個人消費は、物価上昇懸念や将来不安により、中々増加していません。

こうした経営環境の下で、人手不足を克服し自社の経営を発展させるには、自社の体力を強化し、生産性を向上するしかありません。今こそ「人間尊重」経営に徹する時です。先ず最大のパートナーである社員を尊重し、働き方改革を推進し、待遇改善を遂行してモチベーションを高め、離職者を減らして社員の経験値を高め、創意工夫を結集して業務改革に実行することです。これが会社の体力強化・生産性向上の原則です。更に顧客や仕入先などの取引先も大切なパートナーです。お互いが地域社会を担う仲間同士です。相手を尊重し合って対等に取引条件や業務改革、製品改良について対話できるような関係が理想です。今こそ会社づくり・地域づくりにも「人間尊重」を原点として取り組む時です。



日本に1台、 世界最速の枚葉印刷機で 『創注』を支える

(株)共立アイコム (志太支部)

専務取締役 小林 裕敏氏



小林裕敏氏(中央)と取材陣

印刷工場から情報価値創造業へ

藤枝市の小さな印刷工場として創業した、共立印刷(株)。2011年に社名を(株)共立アイコムへ変更し、印刷会社から「情報価値創造業」へ変革することを社内外に宣言します。

一般的には印刷物というものはクライアントが発注し、それを受注する形で仕事が動き始めます。(株)共立アイコムが「情報価値創造業」に生まれ変わり、時代の変化に対応していく中で、社内にも『創注』をミッションとする新設部署が誕生しました。注文を創造する部門、その名は『課題解決部』。若手中心のこの部隊が、クライアント自身が気づいていない潜在ニーズを掘り起こし、注文を創造していく役割を果たします。この創注に対して、工場が古いままではクライアントの満足度は向上しません。最先端の印刷機を導入し、省エネと印刷精度のアップを図る必要に迫られました。

創注を支える最新鋭印刷機

2022年末に省エネ補助金を活用して、世界最速の枚葉オフセット印刷機を国内で初めて導入。Koenig & Bauer社の印刷機で世界最高水準と言

われています。印刷速度は毎時2万枚を記録しながら、印刷切り替えに要する時間は10分以内という最新鋭の印刷機です。

「導入に際しては、消費電力を30%以上抑えることを条件に補助金をいただきました。この30%以上を達成するには、コンスタントに印刷機が動き続け、印刷物の切り替え時間の短縮が必須になります。コロナ禍が明けたとはいえ、印刷機を稼働し続けるだけの印刷物は受注だけでは回しきれません。課題解決部をはじめとした営業部門の活躍により創注があったことで、一年間の採択条件検査もなんとクリアできました」と語る専務取締役の小林氏。一方、印刷の現場で、Koenig & Bau



最新鋭機導入を主導した大石氏にも取材

erの選定から導入を指揮してきたのが取締役製造統括部長の大石修氏です。

「導入当時は、最新鋭の印刷機が扱える嬉しさよりも、電力コストを30%抑えなければならぬというプレッシャーがありました。でも、この機械の性能はすごいです。それは間違いありません」と語る大石氏からは、一年間の調査を無事終えた安堵がにじみ出ていました。

クライアントの目標達成に 最善の手段を提供

最新鋭の印刷機を導入した同社ですが、お客様に「印刷やめましょう」と振れ回った歴史があるほど、時代を先取りする社風があります。それを象徴するのが今年で10回目を迎えた「富士山コスプレ世界大会」の企画運営です。清水駅前銀座商店街の振興からスタートした同イベントは、今では2,250人のコスプレヤーと約3万3,000人の来場者を集め、清水の新たな文化を創出しました。これからも、印刷やWEBなど特定の媒体にとられることなく、クライアントの最終的な目標達成に向けた最善の手段を提供していきます」と力強く語る小林氏。『情報価値創造業』



新工場外観

の萌芽は確実に、藤枝市から全国に向けて発信されています。

取材・記事：村松 繁氏

(アイマーク(株) 志太支部)

取材・撮影：赤堀 昌也氏

(akgm&co. 志太支部)

(株)共立アイコム

〒426-0041 藤枝市高柳1-17-23

TEL：054-635-4652

URL：https://www.kpnet.co.jp

創立 1954年

社員数 130名

入会年月 2024年10月

事業内容 情報価値創造業(総合印刷・販売促進プランニング・デジタルコンテンツ制作など)

会員訪問記

理念が生む成長と絆

(株)フィットコーポレーション
取締役 飲食事業部長 久保 和行氏 (御殿場支部)



久保 和行氏

(株)フィットコーポレーションの取締役飲食事業部長として、8年前に入社以来、数々の改革を実現し会社の成長を支えてきた久保和行氏を訪問・取材しました。入社当初、同社の飲食事業は低迷しており、メニューの質や料理のクオ

リティ、現場の業務フローなど多くの課題を抱えていました。久保氏は、経営理念である「全従業員 の物心両面の幸福を追求し、相手 思考のできる企業をつくり、人を つくる」を軸に、大胆な改革に着手 します。



店舗前にて久保氏

姿勢を貫く

はじめに、メニュー変更と仕入れルートの見直しを行い、コスト削減と品質向上を実現。社員との信頼構築にも注力し、自身の覚悟を示すことで次第に賛同者を増やしました。その一方で、改革に沿わない社員との別れも経験しましたが、理念に基づいた判断を貫きました。取引先との関係では、公正で持続可能なパートナーシップを構築する努力を重ねました。こ



「焼肉よしの」の豪華盛り合わせ「赤富士 頂」

同友会には2023年に入会。地域の経営者が集う同友会での活動を通じて、多様な視点からの学びを得ていると言います。他社の経営者と交流する中で、自社の理念の独自性や価値を再認識し、それをさらに深化

理念を軸に挑む

特に理念の重要性が明確になったのは、コロナ禍における危機対応でした。営業が困難な状況下、店舗の営業形態や従業員の雇用維持といった厳しい局面でも、「従業員とその家族の幸福」を最優先に考え、迅速な決断を行いました。さらにテイクアウト事業を成功させたことで、会社の理念がより深く社内に浸透し、社員の結束力が強まりました。

苦難を乗り越えた成長

こうした改革の成果として、フィットコーポレーションは業績を着実に向上させ、久保氏は取締役に就任。飲食事業の柱も「焼肉」「ラーメン」「レストラン」の3つに整理され、新たに4本目の柱を展開する計画を進めています。この構想には、人間ならではの温かみや独自性を重視する久保氏の姿勢が色濃く反映されています。

させる契機となっています。今後は、より開かれたネットワークの構築も課題だと考えています。

「理念があるから働ける、理念に共感しているからこそこの会社にいる」という言葉を胸に、従業員の幸福と会社の成長を両立させる経営を続けている久保氏。理念は単なる言葉の飾りではなく、日々の判断基準であり、困難な状況下での道しるべとなっています。今後も理念を軸とした経営により、リスク分散を図りつつ新たな事業展開を模索し、持続的な成長と社会への貢献を目指していくと語りました。

取材・記事：片野貴一郎氏
(株)モスク・クリエイション・御殿場支部

(株)フィットコーポレーション

〒410-1325 駿東郡小山町一色97-1 2F
TEL : 0550-76-0574
URL : <https://tatsumi-ind.jp>
創業 1963年
社員数 110名 (飲食48名)
入会年月 2023年12月
事業内容 飲食事業 (焼肉・ラーメン・レストラン運営)・ものづくり事業

文化を残すため飲食業へのチャレンジ

(有)ヤマカ水産
代表取締役 小松 寛氏 (沼津支部)



小松氏 (右から2人目) と取材陣

5代目としてのチャレンジ

(有)ヤマカ水産は1912年創業、当初は干物主体ではなく煮干しでスタートし、4代目から干物の製

造を本格的に開始。現在は5代目小松寛氏が代表となり、新しく飲食業にもチャレンジしています。干物の生産量は最盛期と比べると大きく減っています。干物を普



明るく開放的な店内

干物を拡げる決意

同友会きつかけで
今では積極的に干物文化を拡げたいと考える小松氏ですが、当初事業を継ぐ前は干物屋をやめようと考えたこともあったそうです。

段から食べる人は50代以上が多くなっており、若い人はなかなか食べる機会が少ないのが現状です。その状況からどうにか干物文化を若者に広げるため、小松氏は沼津干物祭りの実行委員長になり、審査員が干物の食べ比べを行うなど、地域に根差したイベントを立ち上げ、今年の7月には「5代目小松ひものや」と名付けた飲食店もオープンしました。今まで卸業しかしておらず直接お客様の意見を聞ける機会がないことに気づき、直接お客様へ最高の状態で干物を提供したときの反応を見るために飲食店を立ち上げたと言います。現在、SNSでも話題となり順調に売り上げも伸びているそうです。

飲食も同友会きつかけ

同友会に入ったのも水産業界から離れ、異業種の人と接点を持ちたかったからだと言います。入会後、会員同士で話していく中で、時代にマッチしない商材は他にもあり、斜陽になっている業界でも突き抜けて業績を伸ばしているところがあると気づきます。干物屋に生まれて次世代に干物をつないでいくことは自分にしかできないことと考えるようになり、干物に真摯に向き合うようになったそうです。

飲食事業を始めようと思ったのは兵庫同友会会員であった淡路麵業(株)の社長に数年前にお会いした際に「おいしい麵を提供して終わりではなく、自分たちがおいしく作ったものをおいしく口に入れてもらうところまでがメーカーの責任ではないか」と言われたことがきっかけだそう。卸業だと販売後適切に管理されているかは自分たちには分からず、今まで責任を持



持ち帰ることができるお土産も充実

(有)ヤマカ水産

会社住所：〒410-0106 沼津市志下629
五代目小松 ひものや：
〒410-0822 沼津市下香貫汐入2170-3
TEL：055-931-2142
URL：https://yamaka-suisan.co.jp/
創業 1912年
社員数 50名 (パート含む)
入会年月 2012年5月
事業内容 干物(ひもの) 製造業・販売業、飲食事業

取材・記事：太田 喜貴氏 (株)キラガ・沼津支部
取材：金子 昌宏氏 (株)ベストスタッフ・沼津支部

田村 雅彦氏 (株)TAMURA・沼津支部
高田 孝三氏 (オフィスタカダ・沼津支部)

てなかった領域でした。だからこそおいしく口に入るところまで責任を持つという言葉に感銘を受け、飲食業を始めました。予想以上に立ち上げは大変で、人を雇い品質を安定させるという課題を乗り越え、元々実家のあった場所に決め、メニューを開発し、ようやく立ち上げを実現しました。現在、基本は昼営業で夜は週末だけ営業しています。「提供の仕方もまだ改善できることがあり、物販も強化していきたい。コロナで留まっていた輸出など今後はECや輸出にも力を入れていきたい」と展望を語りました。

第9講

11月27日(水)

モノづくりで社会を支える

講師：兼古 東志浩氏

(株)アイビス・中遠支部



磐田市富丘で省力化機械の受注から納品まで一貫して対応している(株)アイビス。同社は1968年に兼古氏の父が創業。兼古氏は幼少期からプラモデルや機械工作など趣味を通じてものづくりの世界に入り込んでいきます。日本におけるものづくりの歴史や重要性に触れつつ、自社の抱えている課題や今後の展望を話しました。「多くのことを経験し、どうしたらできるのかを考えることができる社会人になってほしい」と伝えました。

第10講

12月4日(水)

【衝撃】48歳社長が語る！若者とのホンネトーク
地方創生の最前線から！若者と地域が共に創る未来！

講師：増田 隼人氏

(株)集客デザイン研究所・三島支部



サラリーマン時代に「人生のミッシェンとして地方活性化に一矢報いよう」と独立を決意。企業のプロモーションにまつわる仕事を中心にアウトドアイベントの事務局窓口や東京オリンピックのスタッフなど活躍の場を広げていきました。また、直近では三島市にあるウイスキー蒸留所と出会い「ファン醸成事業」への取り組みもスタートしています。「就職活動で気になる企業があったら待つのではなく、自らアプローチしてほしい」と伝えました。

第11講

12月11日(水)

人と話すから人と繋がる

講師：秋山 英正氏

(浜松資材(株)・浜松支部)



ポリウレタン(株)の製造・販売を手掛ける浜松資材(株)。大型設備の固定や防災に活用されるポリウレタンシートの製造を通して防災への関心が更に高まる中、日常生活で首目の方や聴覚障害を持つ方と出会いました。そこで生活への不安を耳にし「自社を誰もが人間らしく生きられる会社にしていきたい」と決意。2020年に会社を継いでからは、会社の存在意義の明確化、労働環境の整備に着手しました。「大学生活の中で、人生の目標を見つけ社会に羽ばたいてほしい」と伝えました。

第12講

12月18日(水)

ものづくりの現在と未来／進化のための組織作り

講師：中村 俊哉氏

(株)シンゲウ技研・沼津支部



鉄、非鉄等金属や樹脂等機械加工全般の熱処理各種、表面処理各種等全般を手掛ける(株)シンゲウ技研。中村氏は大学卒業後、IT会社に就職。父の体調不良をきっかけに家業に戻り、製造業界が抱える技術者不足、後継者不足の課題解決にむけ組織体制を強化していきます。昨年度の県経営指針を創る会で経営指針書を作成し、3月に社内で開催しました。会社を社員が自己実現できる場にしていきたいと考える中村氏。「たった一度の人生、感じたことを持ちかえり、悔いのないようチャレンジしてください」と伝えました。

第13回女性部ダイヤモンドカレッジ 12月13日(金)

どんな時も「笑顔」と「感謝」を忘れない

報告者：(有)福世オートサービス 福世 裕子氏(榛南支部)

第13回女性部ダイヤモンドカレッジでは、「私の想いをビジョンに乗せて」というテーマで(有)福世オートサービスというテーマである福世裕子氏(榛南支部)が報告。発表後にはランチ会と会社見学が行われました。報告者の福世氏の会社からは全社員が参加、福世氏の社員への想いと今後の経営方針が伝わる発表となりました。

同社は創業38年を迎え、民間車検指定工場として地域密着型の整備工場を運営しています。現在4名の高い技術を持つ整備士が在籍し、地域の人々にとって頼りになる存在です。福世氏が大切にしている朝礼では、書籍などを活用し、社員とのコミュニケーションを深めながら風通しの良い職場環境作りを進めています。

きました。その中で心の支えとなったのは、祖母からもらった人生を楽に生きるための3つの言葉でした。それは、「攻めない」「比べない」「諦めない」です。この言葉により、どんな時も笑顔と感謝の気持ちを忘れずに前向きに生きることができたと、福世氏は明るく語りました。

また「経営指針を創る会」では、会社や自分自身と向き合う時間を持ち、それを理念に落とし込むことができたことと述べました。自社の強みでもある社員をどう生かし、会社の価値をどう発信していくかという点については、U SPマーケティングを取り入れてさらなる飛躍を目指すという意味込みを語りました。

報告の後は、「仕事をしていてやりがいや幸せを感じる時はどんな時ですか?」というテーマでグループ討論を行いました。「お客様からの感謝の言葉」「社員の成長を感じられた時」「人の為になったと感じられた時」など、他の誰かに必要とされることや感謝されること、誰かを助けることで心の豊かさを感じ、喜びにつながるのとまとめがありました。

大嶋 里美氏(大嶋自動車・富士宮支部)



福世裕子氏が報告、社員も参加

8年前、認知症を発症した父に代わり事業を承継した福世氏。経営、雇用、子育て、介護など8つの問題に悩まされ、辛い日々が続

1月・2月

DOYOU CALENDAR

1月16日(木)～2月15日(出)

2025年1月16日(木)	中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)	30日(木)	静岡労働局との意見交換会 (15:00 同友会事務局)
17日(金)	県共育委員会 (18:30 ZOOM)	2月4日(火)	県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM)
22日(水)	志太例会 (18:30 B-WORLD) 榛南例会 (18:30 浜岡グランドボウル)	6日(木)～7日(金)	中同協第55回中小企業問題全国研究集会in愛媛 (13:00 愛媛県県民文化会館ほか)
23日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)	12日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア) 静岡例会 (19:00 ペガサート)
24日(金)	富士例会 (19:00 ホテルグランド富士) 三島例会 (19:00 三島商工会議所)	13日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 浜松例会 (19:00 娯座樓)
25日(土)	沼津イントロセミナー兼新年会 (18:00 FDIビルディング6Fバンケットホール)	14日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店)
27日(月)	女性部DC幹事会 (20:00 ZOOM)		
28日(火)	県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)		



《 あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください 》

県広報情報化委員会主催オープン勉強会

できることからはじめよう！ 事例から学ぶ中小企業の現実的なDX

第3弾

11月13日(水) 参加者：18名

今回で第3回目となる広報情報化委員会主催のDX勉強会に会場・ZOOMあわせて18名が参加しました。まず萩智理氏(株)ラプト・静岡支部より「DXに向けたIT化への取り組み方と最低限必要なセキュリティについて」をテーマに報告。システム事業部を主に担当してきた萩氏より、IT化とDX化の違い、DX化を推進するにあたって必要なことについて「資金や専門知識、人材の不足がまずDX化の壁になる。ゴールを明確にして、専門知識を持っている外部にも頼りながら、スモールスタートから始めることが大切」と話しました。また、取引先からの電子対応の要請を受けて業務のシステム化を進めた建設業の企業や、Googleカレンダーなどを使いながらお金をかけずに業務管理のデジタル化を実現した製造業の企業の事例を紹介しました。最後にセキュリティ対策について、内部不正による情報漏えいが近年増えていることや、情報漏えいを防ぐための対策方法を紹介しました。



続いて太田喜貴氏(株)キラガ・沼津支部が「売上拡大に向けたIT活用」をテーマに報告。急激な売上拡大により現体制では時間内で業務を回すことが難しくなっていた折に、業務をアウトソーシングしたところ、EC経由で購入されたお客様への決済のご案内や発送通知などの業務を移管することができたと言います。また、アウトソーシングするにあたってChromeのリモートデスクトップやGoogleスプレッドシートを活用することで、お金をかけずにスムーズに業務移管できたと話しました。

グループ討論ではIT化で取り組んでいること、これから取り組んでいきたいことについて意見交換しました。「IT化で何をすれば良いか分からなかったがプロに相談するのが一番早いと感じた」「低予算からできるものもあることが分かった。スモールスタートから始めたい」などの意見が交わされました。また、普段は中々話せないIT化にあたっての疑問点や課題を率直に話しあう時間となりました。